

## 大学生の結婚に対する意識(2)<sup>1,2</sup>

### —結婚観について—

筑波大学心理学系 堀 洋道

杉野女子大学短期大学部 山根 一郎

筑波大学大学院 (博) 心理学研究科 遠藤 公久

Views of university students on marriage(2)

Hhiromichi Hori (*Institute of Psychology, University of Tsukuba, Tsukuba 305, Japan*) Ichirou Yamane (*Sugino Womens' Junior College, Shinagawa-ku, Tokyo 141, Japan*) and Kimihisa Endo (*Institute of Psychology, University of Tsukuba, Tsukuba 305, Japan*)

Sexual differences of views on married life and on gender roles in husband and wife were studied with two questionnaires. 261 college students (138 male and 123 female) were requested to answer a questionnaire on married life. 251 subjects (129 male and 122 female) answered regarding gender role. Results showed that males expected to maintain lineage and to satisfy sexual desire in married life, females made much of interpersonal relationship with relatives and neighbors. Traditional gender roles, especially sexual double standard, were supported by males more than females. However, females as well as males assigned house management to the wife. Key words : adolescence, gender role, marriage, sex difference.

#### 問 題

適齢期人口における男性過剰, 男女雇用機会均等法の施行という新しい局面を迎えた昨今, プライダル産業が注目され, あるいは“非婚”や“DINKS (Double Income No Kids)”などをキーワードに結婚観の見直しを提案する書が輩出している。このような状況下で実際の若者(大学生)はいかなる結婚観をもっているのだろうか。

ここで結婚観を問題にするのは, 配偶者を選択する場合互いの結婚観が大きく乖離していないことが重要であると思われるからである。実際, 離婚理由の第1位は「家庭観・結婚観が合わなくなった」こ

とであるという報告がある(アルトマン研究所, 1984)。しかし結婚観には個人差のほかにも男女という性別の次元での違いが存在しているのかもしれない。というのは, 女性が社会的に男性と対等に活動することが可能になりつつある一方, それに即応した男性の在り方・生き方に関しては反省的な論議が乏しく(数少ない画期的な男性論に渡辺, 1986がある), そのため結婚の在り方に対する態度が男女の間でズレが生じていると考えられるからである。そこで男女の間で結婚観がどの程度一致しているのか, またいかなる点が一致していないのかをできるだけ具体的に調査することにした。今回は, 結婚適齢期予備軍としての大学生を対象にし, 結婚観を家庭観(結婚生活の目的・形態についての価値観)と夫婦別役割観(夫婦の具体的な役割行動についての価値観)に分け, それぞれについて男女の間で差があるかを質問紙調査によって探った。

- 1 本研究は, 故竹村研一筑波大学心理学系教授との共同研究の一環であった。
- 2 本稿の執筆は, 堀洋道教授の指導のもとに山根が担当した。

## 方 法

質問項目は、家庭観では結婚の目的、結婚式、夫婦間のコミュニケーション、子どもへの態度、離婚に対する態度などについて60項目、役割観では、家庭内でみられる役割行動と家庭内のコミュニケーション行動を中心に夫、妻それぞれについて50項目ずつ（そのうち36項目は同一の文）計100項目にまとめた。

実査は家庭観については首都圏の大学生261名（筑波大学、東京工業大学、杉野女子大学から男138名、女123名）、夫婦別役割観では家庭観と同じ大学から学生251名（男129名、女122名）を対象に、それぞれの大学での講義中に質問紙を配布し、その場で回答させた。回答は、両問とも各項目について賛成する割合「その通りだと思う」「だいたいそう思う」「あまりそうは思わない」「そうは思わない」の4件法で評定させた。

## 結果と考察

### 1. 家庭観

回答選択肢の「その通りだと思う」に1。「だいたいそう思う」に2。「あまりそうは思わない」に3。「そうは思わない」に4を代入して賛成する割合の平均値を求め、平均値の低い順（賛成度の高い順）をTable 1に並べた。また、性差はWilcoxonの順位和検定によって5%以下の水準で有意であった項目について男女の平均値の間に不等号を付した。更に反応が男性・女性の中で賛成と反対に二分されているか、どちらかに集中しているかをみるために、4水準を肯定（「その通りだと思う」「だいたいそう思う」）と否定（「あまりそうは思わない」「そうは思わない」）の2水準に合成して、肯定と否定の比率の差が臨界比で1%水準で有意でなかった項目を賛否両論の項目とみなして、Table 1の賛成率の右側に#印を付した。

#### 1.1 全体傾向

Table 1の項目の並びから全体平均値の上端、下端のそれぞれ15項目（前者を高賛成群、後者を高反対群とする）に注目して、男女を込みにした全体傾向を探る。まず、見合い結婚と恋愛結婚のどちらを志向しているかについては、「たとえお見合いでも相手を好きになるまで付き合うべきだ」が高賛成群に、「恋愛結婚のほうが見合い結婚よりも、結婚後の生活がうまくいかない」と「夫婦は、はじめあまり好きでなくても一緒に暮らすうちにうまくいくようになるものだ」が高反対群に属していた。このことか

ら、男女間の心のつながりがある程度深く確立した後に結婚する恋愛型結婚を志向しているといえる。相手先の親との関係についても「結婚相手の親は自分の親と同じつもりで接したい」が高賛成群にある一方、「妻は、夫の親と同居していなくても、自分の夫の家を大切にすべきだ」は高反対群に属していることから、家父長制度的な“嫁入り”意識は否定しながらも、親子としての心理的なつながりを大切にしようとする傾向がうかがえる。子どもとの関係では、「親は子どもに行儀やマナーを厳しくしつけるべきだ」が高賛成群にある一方、「成人して子どもの不始末のために、親が仕事をやめたり、家や土地を売ったりしてつぐなうのは当然だ」「子どもはどんなに歳をとっても親に従うべきだ」などが高反対群にあり、子どもとの心の中についても強い否定的評価であることから、子どもとの強すぎる一体感は拒否されている。親戚や近所とのつきあいを大切にすることに賛成する傾向を加えて考慮すると、大学生の家庭観は、夫婦を中心とした核家族形態を志向するものの、伝統的家族関係にあった対人ネットワークの広さという長所も取り入れたいとする傾向がうかがえる。

#### 1.2 性差

次に、順位和検定で有意（5%水準）であった項目と肯定率から家庭観の幾つかの側面について性差を探る。

結婚の目的：本調査の項目で結婚の目的がすべて網羅されているとはいえないが、本調査の項目に関するかぎり、「結婚では、子どもを産んで家系を絶やさないことが大切だ」と「子どもができないことが離婚の原因になるのは当然だ」はいずれも男子のほうが有意に肯定に傾いていることから、男子のほうが家系維持のための結婚という伝統的結婚観が強いといえる。また「結婚では、セックスの満足が大切だ」や「結婚するつもりで男女は、結婚する前に性的関係をもったほうが良い」という項目も男子のほうが支持が高いことから、性的充足という目的も男子のほうが重要視しているといえる。更に「適齢期を過ぎても独身でいるのは世間体が悪い」の肯定率を見ると、女子では否定的態度のほうが強いが、男子では賛否両論に近い。このことから、世間体を気にして結婚するのは男性のほうが多いのかもしれない。厚生省人口問題研究所の第九次出産力調査（1987）でも「ある年齢までには結婚する」のを志向するのは男性（18-34歳）のほうが強く、「理想の相手が見つかるまで結婚しない」と答えたのは女性（同上）のほうが多かった。女子の結婚の目的については、項目の総合的な判断によって明らかにしていく。婚約・結婚式：男女とも盛大な結婚式を志向しない

Table 1 家庭観の性差(順位和検定)と肯定率

	平均値			肯定率(%)	
	全体	男	女	男	女
借金や夫婦仲が良くないために子どもを親の自殺の道連れにするのは良くない。	1.28	1.28	1.27	93.4	94.3
結婚したら、親からの金銭の援助はあてにするべきではない。	1.43	1.49	1.37	92.0	96.8
家族そろって食事をするのは大切だ。	1.46	1.54>	1.36	92.0	95.1
家族の間でも、あいさつはきちんとするべきだ。	1.52	1.69>	1.34	87.0	97.6
夫婦の間では、たとえけんかになっても、自分の本当の気持ちや意見を伝えるべきだ。	1.55	1.70>	1.37	81.2	94.3
結婚相手の親は自分の親と同じつもりで接したい。	1.55	1.64>	1.45	86.2	92.6
新しいところへ引越したら、夫婦で近所に挨拶に回るべきだ。	1.62	1.77>	1.46	86.2	93.5
たとえどんな理由でも、夫が妻に暴力をふるうのは良くない。	1.63	1.73>	1.51	83.3	90.2
夫婦は、仲の良い友人のようでありたい。	1.64	1.78>	1.48	81.2	90.2
親戚づきあいは大切にしたい	1.65	1.75>	1.54	85.5	96.8
親は子どもに行儀やマナーを厳しくしつけるべきだ。	1.67	1.70	1.64	85.5	92.7
たとえお見合いでも結婚するまでに相手を好きになるまで付き合うべきだ。	1.68	1.82>	1.51	78.8	89.4
子どもが生まれたら、離婚はできる限りするべきでない。	1.68	1.56<	1.82	89.9	78.1
結婚したら家庭生活は生活のなかでもっとも重要な部分だ。	1.74	1.92>	1.53	79.0	91.1
自分がお金や毎日の生活の面倒をみていない親からの遺産は期待するべきでない。	1.74	1.78	1.69	81.9	85.4
子どもが小学生のうちは、勉強より遊びのほうが大切だ。	1.75	1.71	1.80	85.5	84.6
家族全員が一緒に楽しめる趣味やスポーツをもつべきだ。	1.81	1.84	1.77	81.2	87.8
男の子にも家事の手伝いをさせるべきだ。	1.84	1.91	1.75	80.4	81.3
夫婦どちらかの親と同居しても、子育てをその親に任せるべきではない。	1.84	1.83	1.85	82.6	79.7
夫婦は、男の子にも女の子にもできるかぎり高い教育を与えるべきだ。	1.92	1.86	1.98	73.9	74.8
男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきだ。	1.97	1.73<	2.23	87.0	64.2
子どもをいつつくるか、何人つくるかなどは前もって夫婦の間で決めておくべきだ。	1.97	1.96	1.98	77.5	76.4
結婚では、遺伝による子どもへの影響について慎重に考えるべきだ。	1.97	1.99	1.95	70.8	73.2
結婚式や披露宴は質素なほうが良い。	1.97	1.95	2.00	76.8	72.4
夫婦といえども、多少の遠慮はあるべきだ。	2.00	2.00	2.00	81.2	76.4
近所でお祭りなどがあつたら、寄付や手伝いなどの協力をするべきだ。	2.03	2.08	1.98	76.8	78.1
結婚は、双方の親の賛成を得てからするべきだ。	2.06	2.25>	1.85	66.7	83.7
夫婦といえども、相手を完全に理解するのは無理だ。	2.08	2.04	2.13	73.9	69.1
妊娠したとき、子どもに異状があるとわかつたら、中絶するべきだ。	2.22	2.18	2.25	64.0	58.5#
婚約したら、両者の結納はきちんとするべきだ。	2.25	2.34>	2.15	55.1#	71.5
結婚の費用は式や住まいも含めて、当人たちがすべて払うべきだ。	2.30	2.33	2.27	55.1#	57.7#
結婚では、セックスの満足が大切だ。	2.31	2.04<	2.61	79.0	43.1#
結婚では、子どもを産んで家系を絶やさなことが大切だ。	2.36	2.20<	2.54	62.3	46.3#
家庭内の祝い事は派手にやりたい。	2.36	2.45	2.25	51.5#	61.0#
子どもへの体罰は必要だ。	2.37	2.25<	2.50	64.5	53.7#
夫婦の間では、どんな隠し事もするべきでない。	2.40	2.59>	2.19	43.5#	66.7
たとえ本心は違っても、子どもに対して夫婦は同じ態度をとるべきだ。	2.42	2.49	2.34	47.1#	51.2#
夫婦どちらかの親と同居しても、なるべく別な暮らし方をするほうが良い。	2.44	2.49	2.38	48.6#	50.4#
とくに宗教を信じていないのなら、教会や神前での結婚式は不要だ。	2.52	2.33<	2.74	55.1#	35.0
結婚するつもり男女は、結婚する前に性的関係をもったほうが良い。	2.58	2.40<	2.80	52.9#	27.9
夫婦は、お互いに結婚前の交際相手のことを話すべきだ。	2.75	2.69	2.81	36.7	33.3
自分と家柄が違いすぎる男女の結婚はうまくいかない。	2.83	2.91	2.73	30.7	40.7#
夫婦は相手に不満があつたら、子どもの前でも相手にそれをはっきり言うべきだ。	2.85	2.71<	3.00	33.3	17.8
結婚適齢期を過ぎても独身でいるのは世間体が悪い。	2.88	2.80	2.98	39.9#	28.5
子どもはたくさん産んだほうが良い。	2.90	2.93	2.87	22.5	26.8
子どもがよその子どもにいじめられたら、親はその子の親にはっきりと抗議するべきだ。	2.91	2.80<	3.02	31.9	21.1
子どもが結婚するまでは、子どもがすることは親の責任だ。	2.92	2.94	2.90	27.5	28.5
妻は夫の親と同居してなくても、自分の家庭よりも夫の家を大切にすべきだ。	2.93	3.07>	2.77	17.4	35.0
夫婦は、はじめあまり好きでなくても一緒に暮らすうちにうまくいくようになるものだ。	2.95	2.76<	3.15	35.5	17.9
夫婦は、気持ちが通じなくなつたら、子どもがいても離婚したほうが良い。	2.97	3.01	2.92	22.5	26.8
夫婦の間でも、子どもが欲しくないときに妊娠したら、妊娠中絶するべきだ。	2.98	2.85<	3.13	33.3	20.3
家庭生活よりも仕事や付き合いが大切だ。	3.05	2.95<	3.17	18.8	8.9
子どもは、どんなに歳をとっても親の意見には従うべきだ。	3.09	3.16	3.02	19.6	18.7
重い障害をもった子どもを親が殺して、自分も死ぬのはやむを得ない。	3.13	3.07	3.20	24.1	17.9
成人した子どもの不始末のために、親が仕事をやめたり、家や土地を売ったりしてつくなうのは当然だ。	3.23	3.22	3.25	17.4	18.0
恋愛結婚のほうが見合い結婚よりも、結婚後の生活がうまくいかない。	3.25	3.22	3.27	13.0	12.2
子どもができないことが離婚の原因になるのは当然だ。	3.30	3.16<	3.46	18.3	6.5
結婚後の近所づきあいはなるべく少なくしたほうが良い。	3.35	3.31	3.40	11.0	7.3
結婚式は、多少の無理をしても多くの人を招いて盛大にやるべきだ。	3.35	3.36	3.34	10.3	8.9
子どもが小学生になったら、勉強や進学が何よりも大切だ。	3.40	3.45	3.34	8.7	4.1

不等号は  $p < .05$  #  $p > .01$

点では傾向が一致するが、結婚式の宗教性や結納の遂行などに対する肯定的態度から女子は男子よりも婚姻に関する儀式を重んじ、また結婚に対する両親の賛同も重んずることから、女子のほうが結婚を公的な通過儀礼として認識しているようである。

夫婦間のコミュニケーション：暴力や子どもの前での不満の表明は、女子のほうが否定的である一方、「隠し事をすべきでない」「けんかになっても本当のことを言うべきだ」という開示的コミュニケーションに重点のある項目は女子のほうが肯定的である。また「仲の良い友人のようでありたい」と思う度合いも女子のほうが高いことから、女子は男子よりも対等で開示的な夫婦関係を期待しているといえる。親に対する態度：女子は結婚するときの親の賛成を男子よりも必要とし、結婚後の相手の親に心理的に接近する傾向も男子よりも強い。この結果だけからでは、女子のほうが保守的であるとみなすこともできるが、親戚や近所とのつきあいの積極性の高さなども考慮すると、対人関係を円満にしたいという女性的傾向の現われとみなすこともできる。

子どもに対する態度：欲しくない子どもの妊娠中絶、体罰、男らしさ・女らしさのしつけについては男子がより肯定的であることから、男子には良質な子孫を残そうとする“よい子はわが子”という父性的厳しさがうかがえる。

以上から家庭観の性差をまとめると、男子では、結婚を良質な子孫による家系維持という社会因習的要請と性的充足という本能的要請とによっており、結婚＝子どもをつくる、という態度が女子より強い。一方女子は、婚約・結婚の儀式性に関しては確かに男子よりも保守的といえるが、家庭生活に関しては、単に保守的というよりも、円満で情愛に包まれた人間関係を重視していると解釈できる。

## 2. 夫婦別役割観

夫の行動についての項目(夫項目)、妻の行動について(妻項目)、家庭観と同じ方法で平均値とその性差、および肯定率と臨界比を算出し、その結果をTable 2に示した(記号の表記法もTable 1に準ずる)。更に夫項目・妻項目の各50項目のうち、双方に共通する各36項目の夫に対する反応と妻に対する反応の差をとり、これを“夫が担当すべきでかつ妻が担当すべきでない”というような性別役割分担意識すなわちジェンダー意識の測度(ジェンダー度)とみなした。ジェンダー度がt検定によって有意水準5%で0でない項目に\*印を、そしてジェンダー度の性差が同じ基準で有意である項目に不等号を付してTable 3に示した(なおTable 3では、“夫”、“妻”

という表現を“自分”、“相手”に変更してある)。

### 2.1 全体傾向

Table 2から、夫と妻について男女を込みにした全体の平均値が高い項目と低い項目(それぞれ両端から12項目)から、夫婦ともに賛成度が高い(平均値が低い)のは、「決定に迷っている場合には相談にのってやるべきだ」「趣味や特技などを認め奨励するべきだ」「(相手) 疲れているときは、ねぎらいの言葉をかけるべきだ」などのコミュニケーションの項目が多く、また双方の親戚との交際も支持されていた。夫婦ともに賛成されないのは、子どものしつけかたの決定や転職・退職を相手に相談しないで自分で決めるなどの家族内の重要事項の判断と、相手の浮気を認めることであった。

また、夫については、叱るべき時にはきちんと妻を叱り、政治や社会に関心をもって、必要な収入を稼ぐことが期待され、逆に家事の担当は期待されていない。妻については、夫より先に風呂に入らない・なるべく夫の意見に従う・夫より名声や収入を得ないなどの夫の下位に立つような項目は否定されていた。また、妻が外で仕事を持つことは否定されはしないが、買物や掃除は妻に期待されていることから、妻に対しては家事に専念する必要はないが、家事をおろそかにはするべきでないという態度がうかがえる。

### 2.2 性差

Table 2でジェンダー項目以外の項目の性差をみると、まず夫項目では、「生活に必要な収入をかせぐべきだ」「家事をすべて妻にまがせるべきだ」は男子のほうが賛成度が高く、「妻が家庭の外に仕事を持つことを認めるべきだ」「妻が遊びで数日間外泊することを自由に求めるべきだ」は女子のほうが賛成度が高かった。また、「財産・仕事・子どもの進路などの問題でも妻とよく相談するべきだ」は女子のほうが賛成度が高く、「夫が困っているとき、妻に相談するのは恥だ」は男子のほうが賛成度が高かった。妻項目では、「結婚したら家庭に入るべきだ」「なるべく夫の意見に従うべきだ」が男子の賛成度が高く、逆に「夫がどんなに遅くなっても帰宅するまで起きているべきだ」は女子のほうが賛成度が高かった。

以上をまとめると、“夫は一家の大黒柱で、妻はしっかり家を守る”という旧来の役割分担意識は男子のほうが強く、また夫婦間のコミュニケーションでも男子は夫を上位に立たせたい傾向が女子より強くみられた。

### 2.3 ジェンダー意識の性差

ジェンダー意識、すなわち夫婦間役割分担意識の性差をTable 3から探る(Table 3のジェンダー度は

Table 2 夫婦役割観の性差 (t検定) と肯定率 (臨界比)

夫項目	平均値			肯定率(%)	
	全体	男	女	男	女
夫は、妻が何かで決定に迷っている場合には相談にのってやるべきだ。	1.20	1.26	1.13	95.4	100.0
夫は、財産・仕事・子どもの進路などの問題でも妻とよく相談するべきだ。	1.28	1.37<	1.18	96.9	100.0
夫は、棚の取り付けや簡単な修理くらいはするべきだ。	1.41	1.40	1.43	94.6	95.1
夫は、「妻が悪い」と思ったときには、きちんと妻を叱るべきだ。	1.41	1.47	1.34	93.8	98.4
夫は、政治や社会の動きに関心を持つべきだ。	1.42	1.47	1.38	93.8	97.5
夫は、妻の趣味や特技などを認め奨励するべきだ。	1.54	1.55	1.53	92.3	95.1
夫は、妻が疲れているときは、ねぎらいの言葉をかけるべきだ。	1.55	1.53	1.57	89.9	95.1
子どもが困っているとき夫が相談にのってやるべきだ。	1.66	1.56<	1.76	89.2	85.3
夫は、夫の親戚と進んで交際するべきだ。	1.71	1.74	1.68	87.6	91.0
夫は、生活に必要な収入をかせぐべきだ。	1.71	1.49<	1.93	90.7	73.8
夫は、妻の親戚と進んで交際すべきだ。	1.74	1.71	1.76	88.4	85.1
夫は、妻が髪形や服を新しくしたときには、それに対してなんらかの反応を示すべきだ。	1.80	1.81	1.80	86.8	91.0
夫は、人を招こうとしたり、人に招かれたりしたときは、妻に相談するべきだ。	1.81	1.99>	1.61	76.0	94.3
夫は、妻が家庭の外に仕事を持つことを認めるべきだ。	1.82	2.06>	1.56	74.4	91.0
夫は、避妊の責任を持つべきだ。	1.82	1.91>	1.72	80.6	82.3
夫は、必要ならば夫の両親の日常の世話をするべきだ。	1.85	1.95>	1.75	82.0	91.0
夫は、余暇を家族と一緒に楽しむべきだ。	1.86	1.88	1.83	86.1	88.4
夫は、子どもが小さいうちは子どもの食事、入浴、着替えなどを手伝うべきだ。	1.88	1.92	1.84	82.8	86.9
夫は夫がセックスを欲しても、妻が応じないときは我慢するべきだ。	1.88	1.95	1.80	85.3	90.2
夫は、たとえ妻の男性の友人が訪問してきても、気持ちよく迎えるべきだ。	1.89	1.94	1.84	81.4	86.7
夫は、妻が疲れているときや忙しいときには、食事の準備や買物をするべきだ。	1.91	1.83	2.00	86.7	77.1
夫は、妻以外の異性とも気軽に話し合うべきだ。	1.95	1.81<	2.11	88.4	71.9
夫は、近隣の人たちと進んで交際するべきだ。	1.99	1.97	2.02	80.5	80.2
夫は、自ら子どものしつけを行なうべきだ。	2.00	2.03	1.96	77.5	82.8
夫は、妻のグチを聞いてやるべきだ。	2.01	1.88<	2.16	85.3	75.4
夫は、夫の親戚が金銭的に困っている場合には援助してやるべきだ。	2.15	2.09	2.20	73.6	67.2
夫は、必要ならば妻の両親の日常の世話をするべきだ。	2.16	2.11	2.21	76.0	70.5
夫は、妻の親戚が金銭的に困っている場合には援助してやるべきだ。	2.21	2.06<	2.36	75.2	61.5#
夫は、家庭外であったことはちゃんと妻に話すべきだ。	2.27	2.41>	2.13	51.9#	74.6
夫は、疲れているときにも子どもとよく遊んでやるべきだ。	2.29	2.16<	2.44	69.8	52.5#
夫は、妻の習慣・礼儀作法・服装などを注意してなおさせるべきだ。	2.37	2.20<	2.55	65.9	50.8#
姑が妻に対して文句を言うときには、夫はかならず妻の見方になるべきだ。	2.38	2.35	2.42	59.8#	51.6#
夫は、つらいことがあるときでもユーモアを示すべきだ。	2.39	2.19<	2.61	62.0#	39.3#
夫も家内外の掃除をするべきだ。	2.40	2.37	2.43	62.0#	55.7#
夫は、夫自身の布団をあげぎげをするべきだ。	2.46	2.55	2.36	46.5#	54.1#
性生活のペースは、夫が妻に合わせるべきだ。	2.56	2.57	2.54	47.7#	48.4#
夫は、一日に一回は抱擁またはキスなどの愛情表現をするべきだ。	2.60	2.58	2.62	40.3#	38.0#
夫は、妻が遊びで数日間外泊することを自由に認めるべきだ。	2.60	2.80>	2.39	38.3	58.2
夫は、結婚前に妻以外の異性と性体験をもっていたほうが良い。	2.62	2.49<	2.76	35.3	46.5#
夫も食事のあとかたづけをするべきだ。	2.67	2.62	2.73	44.2#	40.2#
夫は、家事をすべて妻に任せるべきだ。	2.71	2.50<	2.93	46.5#	26.2
家族で旅行や行楽にいくかどうかは夫が決めるべきだ。	2.75	2.73	2.78	35.7	38.5#
夫は、PTAに出席するべきだ。	2.75	2.76	2.75	35.7	37.7#
夫は、なるべく世間付き合いをひかえ、家族サービスに専念するべきだ。	2.86	2.92	2.80	20.1	30.3
子どものおこずかいの額は夫が決めるべきだ。	2.95	2.94	2.96	21.7	19.7
子どものしつけかたは夫が決めるべきだ。	3.01	2.86<	3.16	25.6	11.5
夫がサイフを管理するべきだ。	3.06	2.87<	3.27	26.4	5.7
夫は、妻が少々浮気をするのを認めるべきだ。	3.44	3.46	3.42	11.6	6.6
夫は、自分の転職や退職を妻に相談しないで自分で決めるべきだ。	3.44	3.26<	3.62	14.0	4.1
夫が困っているときや迷っているとき、妻に相談するのは恥だ。	3.61	3.36<	3.89	10.1	0.8

不等号は  $p < .05$  #  $p > .01$ 

符号が負であるものが妻よりも夫の役割とされる度合いが高く、正であるものが夫よりも妻の役割とされる度合いが高いことを示す。まず、男女の間で役割を分担させる性が異なっていた (Table 3で男女の平均値の符号が異なり、かつ性差が有意な項目) のは、「相手の親戚が金銭的に困っている場合には援助

してやるべきだ」「相手以外の異性とも気軽に話し合うべきだ」の2項目だけで、これらはいずれも男女とも自分の性 (男子は夫、女子は妻) に担当させていた。次に、自分の性に役割を分担させた場合として、妻よりも夫のほうがやるべきだと男子の方が強く思っているといえる (Table 3で男子側の平均値の

夫項目 妻項目	平均値			肯定率(%)	
	全体	男	女	男	女
妻は、夫が何かで決定に迷っている場合には相談にのってやるべきだ。	1.34	1.55>	1.12	93.1	100.0
妻は、計画的に買物をするべきだ。	1.34	1.39	1.28	94.6	97.5
妻は、夫が疲れているときは、ねぎらいの言葉をかけるべきだ。	1.37	1.45>	1.28	95.4	97.5
妻は、夫の趣味や特技などを認め奨励するべきだ。	1.38	1.45	1.32	96.2	96.7
妻は、妻自身の布団をあげさげをするべきだ。	1.42	1.56>	1.27	91.5	97.5
妻は、近隣の人たちと進んで交際するべきだ。	1.57	1.55	1.60	93.1	94.3
妻は、妻の親戚と進んで交際するべきだ。	1.65	1.68	1.61	89.2	92.6
妻は、夫の親戚と進んで交際するべきだ。	1.66	1.70	1.61	90.0	91.7
妻は、夫のグチを聞いてやるべきだ。	1.69	1.78>	1.58	88.5	95.9
妻が、家をきれいにするべきだ。	1.69	1.68	1.70	87.7	86.9
妻は、余暇を家族と一緒に楽しむべきだ。	1.70	1.73	1.66	90.7	93.4
子どもが困っているとき妻が相談にのってやるべきだ。	1.71	1.76	1.65	86.9	90.2
妻は、必要ならば妻の両親の日常の世話をするべきだ。	1.73	1.83>	1.61	86.8	96.7
妻は、人を招こうとしたり、人に招かれたりしたときは、夫に相談するべきだ。	1.74	1.84>	1.63	83.0	91.8
妻は、家庭の中でも身だしなみに気を配るべきだ。	1.78	1.78	1.79	91.5	91.8
妻は、自ら子どものしつけを行なうべきだ。	1.81	1.89	1.72	83.9	93.4
妻は、家庭外であったことはちゃんと夫に話すべきだ。	1.82	1.81	1.83	83.0	85.3
妻は、必要ならば夫の両親の日常の世話をするべきだ。	1.88	1.98>	1.76	79.2	90.2
妻は、たとえ夫の女性の友人が訪問してきても、気持ちよく迎えるべきだ。	1.88	1.88	1.87	83.9	81.2
妻は妻がセックスを欲しても、夫が応じないときは我慢するべきだ。	1.94	2.09>	1.78	77.5	91.0
妻は、PTAに出席するべきだ。	1.95	1.87	2.03	81.5	77.9
妻は、事情が許せば、外に仕事を持つべきだ。	1.95	2.25>	1.62	63.9	86.9
妻は、夫の習慣・礼儀作法・服装などを注意してなおさせるべきだ。	2.00	2.00	2.02	74.6	77.9
妻は、夫以外の異性とも気軽に話し合うべきだ。	2.02	2.10>	1.93	76.1	79.5
妻は、つらいことがあるときでもユーモアを示すべきだ。	2.13	2.15	2.11	67.7	68.9
妻がサイフを管理するべきだ。	2.14	2.28>	1.99	60.8#	77.1
妻は、妻の親戚が金銭的に困っている場合には援助してやるべきだ。	2.15	2.16	2.14	72.3	73.8
妻は、夫が仕事のために一家だんらんの時間が少なくなることを認めるべきだ。	2.17	2.15	2.19	73.1	65.6
人が夫に対して文句を言うときには、妻はかならず夫の味方になるべきだ。	2.22	2.27	2.17	58.1#	64.8
夫の健康管理は、妻が責任を持つべきだ。	2.27	2.32	2.20	56.9#	67.2
妻は、家庭内の細かなことで夫をわずらわすべきではない。	2.29	2.27	2.31	64.6	60.7#
妻は、夫の親戚が金銭的に困っている場合には援助してやるべきだ。	2.31	2.36	2.27	58.1#	63.1
妻は、避妊の責任を持つべきだ。	2.41	2.49	2.33	52.3#	56.6#
妻は、棚の取り付けや簡単な修理くらいはするべきだ。	2.46	2.62>	2.29	42.3#	65.6
妻は、結婚したら家庭に入るべきだ。	2.48	2.19<	2.79	62.3#	35.3
子どものおこずかいの額は妻が決めるべきだ。	2.52	2.46	2.59	53.9#	50.0#
妻は、一日に一回は抱擁またはキスなどの愛情表現をするべきだ。	2.56	2.47	2.66	44.2#	36.1
妻は、夫がどんなに遅くなくても帰宅するまで起きているべきだ。	2.58	2.68>	2.46	36.2	50.8#
妻は、なるべく夫の意見に従うべきだ。	2.60	2.47<	2.75	53.1#	33.6
家事は、妻がすべて一人でまかなうべきだ。	2.75	2.65	2.86	43.1#	35.3
子どものしつけかたは妻が決めるべきだ。	2.80	2.75	2.85	32.3	30.3
性生活のペースは、妻が夫に合わせるべきだ。	2.89	2.80	2.99	29.2	22.1
妻は、夫より有名になるとか、収入が多くなるようなことは避けるべきだ。	2.90	2.93	2.87	24.8	32.0
妻は、なるべく世間付き合いをひかえ、家族サービスに専念するべきだ。	2.95	2.95	2.95	22.3	23.8
家族で旅行や行楽にいくかどうかは妻が決めるべきだ。	3.02	2.96	3.09	22.3	11.6
食物の好みを夫に合わせるべきだ。	3.06	3.01	3.12	20.8	20.5
妻は、夫が少々浮気をするのを認めるべきだ。	3.07	2.82<	3.33	34.6	12.3
妻は、結婚前に夫以外の異性と性体験をもっていたほうが良い。	3.17	3.13	3.20	20.8	14.8
妻は、夫より先にお風呂に入るべきではない。	3.19	3.18	3.20	16.2	15.7
妻は、自分の転職や退職を夫に相談しないで自分で決めるべきだ。	3.59	3.49<	3.70	8.5	1.7

不等号は  $p < .05$  #  $p > .01$ 

符号が負で\*印があり、かつ不等号が男子側に閉じている)項目は、「結婚前に相手以外の異性と性体験をもったほうが良い」「相手以外の異性とも気軽に話し合うべきだ」「相手の親戚が金銭的に困っている場合には援助してやるべきだ」「相手が何かで決定に迷っている場合には相談にのってやるべきだ」「子

どもが困っているとき自分が相談にのってやるべきだ」「家族で旅行や行楽にいくかどうかは自分が決めるべきだ」「自分の転職や退職を相手に相談しないで自分で決めるべきだ」「棚の取り付けや簡単な修理くらいはするべきだ」の6項目で、性的自由さや家庭内の問題解決的なコミュニケーションが多い。逆に

Table 3 ジェンダー項目（夫項目—妻項目）のジェンダー度（符号検定）とその性差（t検定）

	平均値	
	男	女
棚の取り付けや簡単な修理くらいはするべきだ。	-1.22 * <	-0.85 *
結婚前に相手以外の異性と性体験をもっていたほうが良い。	-0.66 * <	-0.44 *
避妊の責任を持つべきだ。	-0.57 *	-0.61 *
相手の親戚が金銭的に困っている場合には援助してやるべきだ。	-0.30 * <	0.10 *
相手が何事かで決定に迷っている場合には相談にのってやるべきだ。	-0.29 * <	0.01
相手以外の異性とも気軽に話し合うべきだ。	-0.29 * <	0.17 *
家族で旅行や行楽にいくかどうかは自分が決めるべきだ。	-0.24 *	-0.32 *
自分の転職や退職を相手に相談しないで自分で決めるべきだ。	-0.24 * <	-0.07
性生活のペースは、自分が相手に合わせるべきだ。	-0.24 *	-0.45 *
子どもが困っているとき自分が相談にのってやるべきだ。	-0.21 * <	0.11
自分がセックスを欲しても、相手が応じないときは我慢するべきだ。	-0.14	0.02
自分の親戚が金銭的に困っている場合には援助してやるべきだ。	-0.07	0.07
なるべく世間付き合いをひかえ、家族サービスに専念するべきだ。	-0.04	-0.15 *
相手の親戚と進んで交際するべきだ。	0.01	0.15 *
自分の親戚と進んで交際するべきだ。	0.05	0.07
つらいことがあるときでもユーモアを示すべきだ。	0.05 <	0.49 *
相手の異性の友人が訪問してきても、気持ちよく迎えるべきだ。	0.05	-0.03
人が相手に対して文句を言うときには、かならず相手の見方になるべきだ。	0.06	0.25 *
相手が疲れているときは、ねぎらいの言葉をかけるべきだ。	0.09 <	0.29 *
子どものしつけかたは自分が決めるべきだ。	0.10	0.31 *
一日に一回は抱擁またはキスなどの愛情表現をするべきだ。	0.10	-0.03
相手のグチを聞いてやるべきだ。	0.10 <	0.57 *
必要ならば自分の両親の日常の世話をするべきだ。	0.11	0.14 *
相手の趣味や特技などを認め奨励するべきだ。	0.12 *	0.21 *
必要ならば相手の両親の日常の世話をするべきだ。	0.13 <	0.45 *
余暇を家族と一緒に楽しむべきだ。	0.14 *	0.17 *
自ら子どものしつけを行なうべきだ。	0.15	0.23 *
人を招こうとしたり、人に招かれたりしたときは、相手に相談するべきだ。	0.17 *	-0.02
相手の習慣・礼儀作法・服装などを注意しておさせるべきだ。	0.24 * <	0.52 *
近隣の人たちと進んで交際するべきだ。	0.42 *	0.41 *
子どものおこずかいの額は自分が決めるべきだ。	0.47 *	0.37 *
自分がサイフを管理するべきだ。	0.58 * <	1.28 *
家庭外であったことはちゃんと相手に話すべきだ。	0.59 * >	0.30 *
相手が少々の浮気をするのを認めるべきだ。	0.64 * >	0.09
PTAに出席するべきだ。	0.90 *	0.71 *
自分自身の布団をあげさげをするべきだ。	1.00 *	1.09 *

\*  $p < .05$  不等号は  $p < .05$ 

夫よりも妻のほうがやるべきだと女子の方が強く思っているといえる（女子側の平均値の符号が正で\*印があり、かつ不等号が男子側に閉じている）項目は、「つらいことがあるときでもユーモアを示すべきだ」「相手が疲れているときは、ねぎらいの言葉をかけるべきだ」「相手のグチを聞いてやるべきだ」「必要ならば相手の両親の日常の世話をするべきだ」「相

手の習慣・礼儀作法・服装などを注意しておさせるべきだ」「自分がサイフを管理するべきだ」の6項目で、家族・家計の管理と感情調整的なコミュニケーションが含まれる。次に、異性に役割を担当させた場合としては、妻よりも夫の方がやるべきだと女子の方が強く思っているといえる項目は1つもなく、逆に、夫よりも妻がやるべきだと男子のほうが強く

思っているといえる（男子側の平均値の符号が正で\*印があり、かつ不等号が女子側に閉じている）項目は、「家庭外であったことはちゃんと相手に話すべきだ」「相手が少々浮気をするのを認めるべきだ」の2つであった。

このように、役割行動の分担意識に関しては、男女間で互いに相手に押しつけ合うなどの大きな矛盾はみられず、家庭内のコミュニケーション行動には微妙な分担意識さえみられた。しかし、ここでも男子は女子よりも“男は外、女は内”という意識が強いことが判明し、更に性的規範のDouble Standard（男性のほうが女性よりも性的規範が緩い）意識も男子のほうが強い傾向が見いだされた。また家計の収入に関しては必ずしも夫が一任されるわけではないが、支出の管理は妻に担当させようとする傾向が特に女子でみられた。以上から、大学生の結婚観をまとめると、旧来の家父長的な結婚観は特に女子の方において脱却されてきているが、妻が家族の世話を担当することには女子も肯定しており、全体的には大学生の結婚観に新しい傾向（たとえば収入と家事の完全な共同分担）を求めているとはいえない。といても女子は家父長的結婚観には決して戻ってはいないので、一般に言われているように女性の結婚観が保守化しているとまではいえない。女性の結婚観の方向性を探るなら、夫婦愛を結婚の唯一の拠り所とはせず、周囲の人々から祝福され、誰とも疎遠にならない結婚、愛情のネットワークの拡大としての結婚が志向されているのではないか。

## 要 約

結婚観の性差を探るために、家庭観60項目及び夫

婦の役割観100項目について、大学生を対象（家庭観261名、夫婦別役割観251名）に質問紙調査をした。回答は、両問とも各項目について賛成する度合を4件法の評定で求めた。

その結果、家庭観では、男女とも恋愛型結婚を志向し、家父長制度的な“嫁入り”意識は否定しながらも、相手の親とは親子としての心理的なつながりを大切にする傾向がみられた。性差については、男子では結婚に対して良質な子孫による家系維持と性的充足を求める傾向がみられ、女子は円満で情愛に包まれた人間関係を重視する傾向がみられた。

夫婦別役割観では、“夫は一家の大黒柱で、妻はしっかり家を守る”という旧来の役割分担意識は男子のほうが強く、また夫婦間のコミュニケーションでも男子は夫を上位に立たせたい傾向が女子より強くみられた。役割行動の分担のさせ方に関しては、男女間で互いに相手に押しつけ合うなどの大きな矛盾はみられず、基本的には従来の役割分担の踏襲がみられた。

旧来の家父長的な結婚観は特に女子の方において脱却されてきており、結婚を愛情のネットワークの拡大として位置づける方向性が示唆された。

## 引用文献

- アルトマン研究所 1984 離婚と再婚に関する意識調査  
厚生省人口問題研究所 1987 第九次出産力調査  
渡辺恒夫 1986 脱男性の時代 勁草書房

—1989. 9. 30受稿—